

## 美浜町営住宅河和団地基本設計業務委託プロポーザル講評

### 審査委員長

小松 尚 (名古屋大学大学院環境学研究科准教授)

26 者から提出された提案書のうち、提案資格や提案書に不備があった 2 者を除く 24 者の提案書について第 1 次審査を行い、5 者を選出しました。この 5 者について、ヒアリングによる第 2 次審査を行い、その後に行われた厳正な審査の結果、選定委員会は全会一致で最優秀提案者に studio velocity 一級建築士事務所、次点者に D. I. G. Architects を選定いたしました。

最優秀提案者となった studio velocity 一級建築士事務所の提案は、4 方向の開放性を有した独立住戸を敷地全体に配置したものです。従来の公営住宅の住戸は、一般に 2 方向の開放やアクセスを確保していたのに対して、この提案では住戸に 4 方向の開放性を確保して縁側を適宜設置することによって、隣家との関わりを容易にするだけでなく、様々な大きさや形の広場や外部空間を生み出し、住宅同士や敷地内外を柔らかく繋ぐことを可能にしています。このような空間構成は、敷地内や団地内の入居者間だけでなく、団地外の住民との円滑なコミュニケーションを促すことが期待できるとともに、災害時に団地外への避難も容易になると考えられます。加えて、構造的には片流れの屋根を架けたシンプルな木構造であること、入居者の視点からは想定される様々な入居者にとって住みやすい住空間が用意可能な点も高く評価されました。一方、各戸のプライバシーに関係する住戸同士の向き合い方に関しては、住戸間の寸法設定や各戸からの視線や生活領域の重なり点について、更なる検討が必要と思われる。また、西側の国道に面する住戸も他の住戸同様、開放的な空間設定となっている点も要検討と思われる。基本設計段階における十分な検討を求めます。

次点者となった D. I. G. Architects の提案は、3 戸ないしは 2 戸を長屋のように繋げた住戸群単位とし、それを敷地全体に配置しつつ、住戸群の間の外部空間を様々な高さの木デッキでつなぐというものです。大きな開口部（窓）を有する住戸の魅力的な内部空間とともに、それがリズムカルに並ぶことによって変化のある魅力的な団地全体の景観形成が期待できます。また、設計段階において団地住民や周辺住民、行政関係者によるワークショップを開催し、対話を通じて設計を進めようとする姿勢も高く評価されました。しかし、大開口部の日照対策やプライバシーに関する対応や木デッキのメンテナンスについては課題が残るなど、総合的な評価の中で僅差ながら次点となりました。

残る 3 者については、まさにまちづくりの拠点として公営住宅団地を捉え直した提案、地元職人の創意工夫を引き出すことを重視した提案、現代的な建築表現を取り入れた意欲的な提案など、いずれも大変魅力的かつ重要なアイデアが盛り込まれていましたが、建築的な課題とともに、入居者が設計時に特定できないために十分な事前検討が困難となることへの懸念、また本プロポーザルのテーマに対する提案の的確さな

どの点で、総合評価として上記2者には及びませんでした。

なお、この第2次審査に残った5者の提案には、今回のプロポーザルが求める木造による公営住宅の可能性を最大限に引き出そうとする数々のアイデアが盛り込まれており、大変刺激的で、かつ示唆にあふれるヒアリングの時間であったことを付記させていただきます。

また、第2次審査には残らなかったものの、本プロポーザルに果敢に応募された各者にも、心から御礼申し上げます。

最後になりましたが、選定された最優秀提案者と美浜町関係者の協力によって河和団地の建て替えが無事完成いたしますことを、選定委員会一同、心より祈念しております。

以上